



特集 脱原発

その1

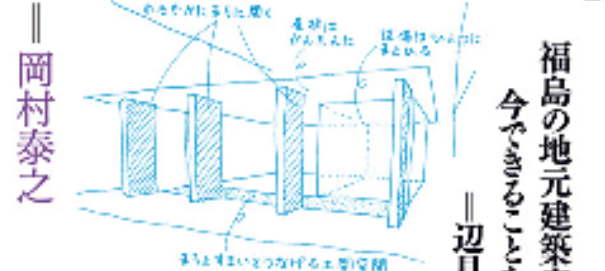
フクシマを救え!

県内の教育施設の76%が、0.6ミリシーベルト以上と管理区域以上の放射線量を出していたことがわかりました。自主避難は何の保証もありませんが、6月半ばで約3万人の福島県民が自主避難し、8月末には10万人に達する見込みです。中手聖一、二子ともたちを放射能から守る福島ネットワーク代表。福島県内の建築関係者にとって、放射能汚染によって今後仕事があるのかと不安を抱えながら生きています。だからといって、呆然と過ごすわけにはいきません。被災地における建築家の役割は山ほどありますから。(福島県知世市「福島県知世市」建設設計士会)

- 中手聖一 | 福島の子どもたちを守るために、早急に避難・疎開の開始を!
- 樋口健二 | 誰かが行かなければ、原発処理が終らない不条理はもうたくさん!
- 山崎久隆 | 電力は全国どこでも足りている。原子力発電54基を今すぐ廃炉に!
- JIA福島 | 出荷できない県産材を使って、木造の仮設住宅、高齢者施設をつくる
- 田中優 | 脱原発に向かうために、エネルギーの民主化急げ!
- 24時間換気で室内が放射能汚染、ガイガーカウンターは何を選べばいいのか

群馬大学早川由紀夫教授は、国、自治体のホットスポットのデータ(6月18日)に基づき、放射線の広がりを作図

行動する建築家② 住まいと街の境界を開く 「LICO×LITA HOUSE」



各地域に拠点を置く設計事務所の
作品集
建築集

建設現場の安全な足場づくりは
国の義務に——小野辰雄

オビニオンの視線



五十嵐太郎の先読み編集局
「3.11以降の建築」
展覧会のテーマも